

車くるま座 しまなみ トーク!

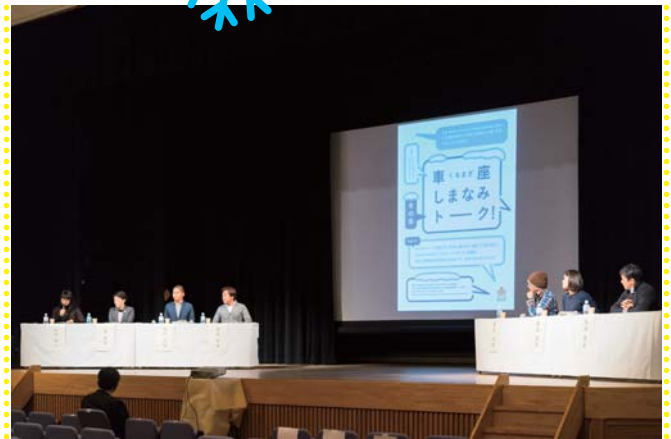
大三島を日本でいちばん住みたい島にするプロジェクト2015 車座しまなみトーク! 冬の会

報告書

平成27年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業



2016年1月24日、大三島の上浦歴史民俗資料館にて「車座しまなみトーク! Part5 冬の会 日本でいちばん住みたい島にするために」が開催されました。今回は1年間取り組んできた「大三島を日本でいちばん住みたい島にするプロジェクト2015」の総括です。第一部では大三島だけでなく瀬戸内海全域から独自の方法で地域づくりに取り組んでおられる方々にご参加いただき、さらに広い視野で大三島、今治市、さらに瀬戸内海地域の未来についての意見交換を行いました。第二部ではFC今治オーナーの岡田武史さんと本プロジェクトの代表、建築家の伊東豊雄が地方の未来について語り合いました。その模様をご報告いたします。



前半では瀬戸内海の島々と大三島の若い担い手たちが大集合!



岡田武史氏と伊東豊雄が未来につなぐ地方の可能性を語った後半

実行委員会より

2015年より夏の会、秋の会と開催してきた「車座しまなみトーク!」も、Part5 冬の会をもって終了します。本プロジェクトの総括として、バイリンガルの広報冊子「大三島ナビゲーター」を発行し、さらには大三島情報のプラットフォームとなるウェブサイト「Omishima.net」を制作中です。今後も今治市伊東豊雄建築ミュージアムを拠点として、大三島を日本でいちばん住みたい島にするプロジェクトは継続、発展していきます。

これまでの車座しまなみトーク!の様子



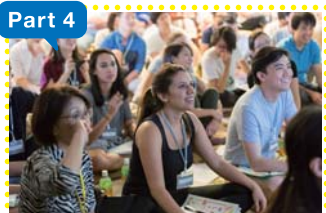
「大三島の魅力を語ろう」



「大三島の食の恵みを語ろう」



「絶体絶命のデザイン」



「大三島の魅力を語ろう(国際編)」

瀬戸内・車座トーク!前半 「住みたい島にするために」

1月24日(日)13:00~15:30

瀬戸内海に浮かぶ島々から、独自のビジョンを掲げ活躍している方々をお招きして、それぞれの活動をご紹介いただいた後、大三島の住人3名を交えて「住みたい/住み続けたい島」についてディスカッション形式で語り合いました。進行は今治コミュニティ放送株式会社FMラヂオバリバリパーソナリティの山内奈々さんが担当。瀬戸内中に発生している点としての活動が、近いうちにつながって線となり、さらに広がって面となり、大きなうねりとなって日本を変える原動力になる予感がする内容となりました。



会場から見守る大三島住民のみなさん



田中佑樹 たなか・ゆうき
NPO法人農音代表理事【愛媛県中島】

20代は首都圏で音楽活動をしていましたが、もっと違った何かができないかとミュージシャン仲間と中島に移住。中島は、かつて10,000人いた島民が今や2,700人、さらに65才以上が60%を占める超高齢の島。理屈よりも、とにかく人が増えれば中島が元気になるのではないかと移住促進や就農者を増やす活動を実施。農業と音楽を無理やり結びつけた見せ方でPRし、「面白いやつらが暮らしている島らしい」と人が人を呼び、5年間で外国人を含む34人が移住した。2015年には第5回地域再生大賞記念賞を受賞。



移住検討者の希望に合わせて島中を案内する農音のスタイル



島のお母さんに支えられて美味しい食事を提供している島キッチン

藤崎恵実 ふじさき・めぐみ
島キッチン店長【香川県豊島】

2010年瀬戸内国際芸術祭をきっかけに、故郷である豊島にUターンし、「食とアート」で人々を繋ぐ出会いの場として計画された島キッチンのプロジェクトに「こえび隊」として参加。島の食材を使った丸の内ホテルのメニューは元より、島のお母さんたちが笑顔で働く姿が人々を惹き付ける。最近は地域のために何かできないかと、一人暮らしのお年寄りの家におかずを配達したり、地域の方々の誕生日会などイベントの企画、一部ずつ手渡して配る手作り新聞の発行など地道に活動を積み重ね、島のコミュニティの拠点になりつつある。



島の素材を組み合わせる小ロットだからできるジャムを開発



松嶋匡史 まつしま・ただし
株式会社瀬戸内ジャムズガーデン代表【山口県周防大島】

高齢化率が日本一という周防大島に、妻の実家がお寺だった縁で8年前にUターンしてきた。バリで出会ったジャムと島の農産物を結び、「この島でしかできないジャムづくり」をモットーに、季節や素材の組み合わせに創意工夫を凝らして150種類以上を生産。島に既にある作物は農家さんから購入してジャムを作り、島に還元する仕組みを築く。現在は島の仲間とジャムを使ったスイーツなどの商品開発やカフェ経営などの事業も拡大し、雇用の創出にも貢献。地域の繋がりがジャム屋を支え、地域復興の要となっている。



しまの学校がみうららで企画運営した「みかんの運動会」

瀬戸洋樹 せと・ひろき
NPOしま・なみ事務局長【愛媛県今治市大三島】

伊東建築塾の塾生として大三島に関わるようになり、2014年に移住した島民2年生。現在は研修生として農業を学びながら、NPOでは移動手段に困っている高齢者への交通サービスを行っている。また、大山神社参道での参道マーケットや大三島みんなの家でのクリスマス会などの企画運営にも携わる。「農業」「福祉」「交流」の3本を柱に住民が暮らして楽しい地域づくりを念頭に活動している。



糞にかかったイノシシに駆けつける隊員

菅 森実 かん・もりみ
瀬戸内しまのわユース事務局長【愛媛県今治市大三島】

2011年東日本大震災の復興支援ボランティアに参加、人々のきずなや地元の大切さを再確認し、上浦町にUターン。自身は、島の歴史を発掘する歴史勉強会、自然の豊かさを満喫する天文会、海岸のクリーンアップなどの地元の活動も積極的に行っている。また、「しまのわ博覧会2014」をきっかけに知り合った仲間たちと瀬戸内しまのわユースを立ち上げた。継続して活動を行うことで、少しずつ「しまのわ」が育っていることを実感している。



参道マーケットで賑わう大三島みんなの家

渡邊秀典 わたなべ・ひでのり
しまなみイノシシ活用隊代表【愛媛県今治市大三島】

島内のイノシシが増えて、柑橘や野菜などの農作物の被害が年々拡大している。そこで農家が仕掛けた罠にかかったイノシシを新たな資源に蘇らせようと、仲間とともにしまなみイノシシ活用隊を結成した。現在は血抜きなどしっかり処理を施した精肉の販売、肉や皮を使ったソーセージなどの加工品の製造、骨でスープをとった猪骨ラーメンなどの開発を手掛け、着実に販路を拡大しつつある。



山内奈々 やまうち・なな
今治コミュニティ放送株式会社
FMラヂオバリバリ (FM78.9MHz)
【愛媛県今治市】

豊かな自然、美味しい食べ物、あたたかい人柄。島や地域の魅力を大切にしたいライフスタイルの実現と継続を目指すには何が必要かをディスカッションを通じて語り合いました。有益な知識やノウハウの交換、島同士のネットワーク強化、瀬戸内海圏としての意識向上など「住みたい/住み続けたい島」について、共に考え語り合うことができ、貴重な機会となったと思います。共通の思いを持つ仲間たちは、今後よきライバルとしても深い絆で結ばれあい、これをきっかけに、何か新しいコラボレーションが生まれそうな予感もします。全国からいろんな人を巻き込んで島の「ファン」をじわりじわりと増やしていってほしいです。まずは、知ってもらうこと。そして実際に訪れてもらうこと。私はラジオを通して少しでもそのお手伝いができればと考えています。

瀬戸内・車座トーク! 後半 1月24日(日)15:30~17:30

「未来につなぐ地方の可能性」

岡田武史さん 株式会社 今治、夢スポーツ代表取締役 [愛媛県今治市]

伊東豊雄 NPOこれからの建築を考える 伊東建築塾理事長 [愛媛県今治市大三島]



前半が瀬戸内にしっかり根を生やして活動をしている20~40代の方々による「地域づくり」がテーマだったのに対し、後半はサッカーW杯日本代表監督を務めた岡田武史さん、世界中でプロジェクトを手ける建築家の伊東豊雄の二人が登場し、関康子さんの進行により、世界・全国的視点から「地方の未来」について語っていただきました。

今治市、大三島との出会い——

岡田

サッカー選手は型にはめてはいけな
いと考えていたが、サッカー最強国
であるスペインの選手たちが共通した型
を会得した上でプレイしていることを
知り、柔軟性のある少年期から自分が
理想とするサッカー教育を行いたいと
考えるようになった。そして選んだの
が今治市。自然や風土、町の規模、人々の
気質が気に入って2014
年に今治、夢スポーツを設立。現在は東京
と今治だけでなく、全国
を走り回る日々。

伊東

2011年に大三島に伊東豊雄建築ミュージアムがオープンしたの
がきっかけ。現在は、同じ年にスタートした伊東建築塾の塾生た
ち、島の有志の方々とともに、大山祇神社参道の復興、島の新産
業につなげたいワイナリー設立など、島を元気にする活動を行っ
ている。まだまだこれからだが、興味を持って支援して下さる
方々が確実に増えていると実感している。



これからの都市と地方の関係——

岡田

すべてを捨てて移住するというのはハードルが高い。自分はより
良いサッカーを求めて、国や地方関係なく生活している。だから今
治市にすべてをささげるというよりも、ここでしっかり成果をあげ
たいという意識が強い。オール・オア・ナッシングではなく、もっと
柔軟に都市も地方もお互いの良いところを活かしながら関係性を
深めていけたらと考える。

伊東

「地方創生」という言葉には、都市の地
方に対する上から目線が感じられるの
で、あまり好ましくないが、ここまで行
き詰っている日本を救うには、地方が
元気になってくれるしか方法がないと
考える。近々、大三島に第二の家をつ
くって、東京と大三島を行き来する生
活を始めたい。それは大三島の豊かな時
間の中で、ゆっくりとこれからのライフ
スタイルについて思索したいと考えるからだ。「地方か都市か」で
はなく「地方も都市も」と考えたい。



二人で一緒に——

岡田

スポーツの力を活かして、今治市をもっともっと元気にしたい。ま
ずはFC今治を地域に定着させ、できれば拠点となるスタジアムを
つくり、ジムや関連施設なども併設し、トップアスリートも招聘し
て、日本中、世界中からスポーツを愛する人々が集うまちになっ
たらうれしい。そのためには人々が直接出会える「場」が必要だ。

伊東

私も大三島に様々な人々が集えるシェアハウスや小さなホテルを
つくって、いろいろな人に島を訪れてほしい。人が集うことによ
って、食をはじめとした新しい文化が生まれ、発信されていくこと
に期待したい。岡田さんと組んで今治市、瀬戸内をもっともっと活
気づけていきたい。